

(対象事業：地域連携強化事業・地域文化資源整備活用事業・ミュージアム支援地域人材育成事業・国際交流拠点形成事業)

事業名：子ども向け体験学習会「青銅器をつくろう」

事業者名：奈良県立橿原考古学研究所附属博物館

住所：奈良県橿原市畝傍町50-2

TEL：0744-24-1185

FAX：0744-24-1355

HPアドレス：<http://www.kashikoken.ne.jp/museum/>



連携事業者名：橿原市千塚資料館

会場：奈良県立橿原考古学研究所附属博物館

事業期間：平成21年7月1日 ～ 平成21年11月3日

## 1. 館の使命と本事業の関係

当館は考古学に特化した博物館であるため、単なる社会教育・生涯学習施設ではなく、考古学や文化財を県民に身近に感じてもらうための橋渡しの役割も担っている。また、県内には博物館でのボランティア活動を望む声が多く、活動できる機会を提供する必要がある。これらを結びつけることが館の使命としてあげられる。

当時の技術に近い方法で学習会を実施することで当時の技術を復元的に体験でき、現代と過去との距離を縮め、考古学や文化財に親しむ機会の増加へ繋がる。さらに、ボランティアと協同で行うことで、ボランティアを育成することになり、次年度以降に体験学習会を開催するための人材バンクへと繋がる。そして、体験学習を実施したいが人手不足、技術・方法がわからないといった他機関で活用できるようにしていく。これにより他府県と比べ、学習会の件数が少なく、考古学・文化財にふれる機会が少ない現状を打破することへと繋がる。

## 2. 企画内容

### ①事業目的

就学生を主な対象として、青銅器を製作するための鋳型の彫り込みや鋳込み作業を実体験して、展示品では理解しづらい鋳型の使用方法を理解し、弥生時代の技術の一端を感じてもらう。また、次年度以降の体験学習会の実施にむけて、体験学習会の実施に特化したボランティアスタッフを育成することを目的に、準備から実施までの一連の作業をボランティアと協同で行う。育成したボランティアは次年度以降の体験学習会にも協力を呼びかける。現在当館では展示解説を行うボランティアを実施しているが、これとは別の体験学習会を中心としたシステムを構築する。

### ②事業概要

銅鐸と青銅器鋳造に関連した特別展「銅鐸ー弥生時代の青銅器生産ー」の期間中に、展示に関連する砂型を用いた青銅器の製作・鋳造体験を実施する。実施するにあたり、体験学習会の実施に特化したボランティアスタッフを募集・育成する。

### 3. 事業実績

#### (1) 事業の主な内容及び日程

まず、事業の中核をなすボランティアスタッフを7月に募集し、9名の応募があった。この9名と共に打合せを行った。なお、打合せは当初3回の計画であったがボランティアスタッフの積極的な取り組みのもと5回実施した。参加者は当館学芸員、連携館の橿原市千塚資料館の学芸員、講師として鋳物師2名、ボランティアスタッフ9名である。初回の打合せでは、自己紹介、作業内容の説明、事業の趣旨などを説明した後、一度作業を体験するために全員で銅鏡づくりを行った。2回目以降の打合せでは、当館学芸員の進行のもとボランティアスタッフを中心に作業内容・手順の検討、道具の問題、当日配付資料の作成などについて話し合った。いずれの打ち合わせも参加者から様々な意見が積極的に出された。その一つに学習会で製作した銅鏡を博物館内のフリーゾーンで展示するという提案があった。これは当初予定していなかったが、博物館の展示予定と調整し、11月7日～15日に実施した。体験学習会を実施するために必要な道具である鋳型づくりは兵庫県尼崎市の工場で実施したが、ボランティアが交替で作業し、現地での鋳造実験にも参加した参加者もいた。

今回の事業の目的である体験学習会に特化したボランティアスタッフの育成については上述したような打合せをもとに進め、その成果として10月31日（土）に「銅鏡をつくろう」を実施した。なお、事業名称は「青銅器をつくろう」であるが、ボランティアスタッフとの打合せの中で、何を作るのか明確にするためイベント名を「銅鏡をつくろう」にした。参加者を子どもとその保護者2人1組で計40組募集したところ、50組の応募があった。しかし、新型インフルエンザなどの影響のため当日は32組となった。午前9時30分から午後4時までであったが、参加者全員最後まで作業をできた。参加者の多くは奈良県内在住であったが、一組県外からの参加があった。



打ち合わせ風景



学習会風景

#### (2) 参加者の数

参加者人数      延べ 64人  
内 訳：小・中学生 32名、保護者 32名

### (3) 事業により作成した印刷物等

参加者募集のチラシ、当日配布資料

そのほか、学習会で製作した成果物（銅鏡）を博物館内のフリーゾーンにて展示した。  
展示の内容は、当日の作業内容と学習会の風景をパネルにして、成果物とともに展示した。

### (4) 実施事業に関する新聞記事等

#### ○新聞記事

読売新聞（奈良版）平成 21 年 11 月 1 日 朝刊 31 面

奈良新聞（奈良版）平成 21 年 11 月 2 日 朝刊 15 面

#### ○テレビ、関連誌等

読売テレビ放送 「NNN News リアルタイム・サタデー」

平成 21 年 10 月 31 日（土） 17 時 53 分から 39 秒放送

#### 4. 事業の成果及び今後の課題（参加者の意見を含む。）

今回の事業は当館と連携館の橿原市千塚資料館の2館で実施したため、ボランティアスタッフは橿原市千塚資料館ともつながりができた。今後継続して体験学習会を実施する際にボランティアスタッフに協力を依頼し、様々な学習会を実施できるよう進めていく。

学習会終了後、アンケートを実施した（参加者1組に1枚）。ボランティアスタッフの対応、説明がよく、また参加したいという回答が多くみられた。少数の学芸員やスタッフで実施するのではなく、参加者4人に対し、スタッフ1人で対応できたので参加者からは好評であった。参加者の感想として、貴重な体験をした、楽しかったという意見だけでなく、次のような感想もあった。

- ・銅を流す作業など初めての経験でした。古代の人はどのようにして作っていたのか想像すると楽しいです。
- ・スタッフ全員で、考古学を好きになってほしいという気持ちが伝わってきて、すごくアットホームな催し物となったように思います。知人の紹介で和歌山から来たかいがありました。ぜひ、次回もこういう催し物があれば、参加したいと思います。親子の会話を深めるうえでも、有意義でありました。
- ・古代の人がどのような思いで銅鏡を作ったのか、とおききして2600年も前の日本での暮らしをしみじみと思うかべました。展示室のケースの中に並んだ銅鏡を眺めているだけでも「本物」はそれなりの存在感で私たちにかたりかけてくれていたのですが、今回の学習会に参加させていただくことで、重さ、輝き、込められた思いに近づけたように思います。スタッフの方、ボランティアの方皆様方はとても細やかに教えてくださり、何も知らない私たちも楽しく参加させていただきました。奈良には歴史はもちろん、人のあたたかさ細やかなおもてなしの心もずっと育まれてきていることをありがたくうれしく奈良県人で良かったと思えた一時でした。こちらでのイベントは初めてでしたが、期待以上のものがありました。一日がかりでも時の長さを感じることなく充実した時間を本当にありがとうございました。

今後の課題として、アンケートにもみられた体験学習会の実施回数を増やしてほしいという意見に対し、どのような内容で、どういった方法で実施するか、ボランティアの人数は足りているか、など多くの課題・問題がある。現在は、ボランティアスタッフも体験学習会を行うにあたりまだまだ試行錯誤の段階である。そのため、次年度も博物館主導で、ボランティアスタッフと協同で体験学習会を企画・実施し、ボランティアを育成していくことが当面の課題である。